

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 3 月 11 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/11 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.7 m ³ /h	23.0	106.1 kPaabs	0.00 vol%
		給水系：約 4.8 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 6.0 m ³ /h	41.2	121 kPaabs	0.06 vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 5.2 m ³ /h	52.8	101.6 kPaabs	
		給水系：約 1.8 m ³ /h			

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/11 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*	27.0
2号機	循環冷却システム	運転中	14.4
3号機	循環冷却システム	運転中	14.3
4号機	循環冷却システム	運転中	26

*システム二次系エアフィンクーラー：停止中

【2号機】・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	3/7 13:55～ 3/11 8:30 移送実施
	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	3/11 8:47～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	3/10 10:10～ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (3/11 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H24/3/1～ 水処理設備の信頼性向上を目的とした改造工事のため、セシウム吸着装置を停止*(3/15迄、停止予定)。
3/10 第二セシウム吸着装置は水処理設備の信頼性向上を目的とした改造工事が終了したことから、17:00 に起動し、18:34 に定常流量(約 42m³/h)に到達。
※改造工事に伴う水処理設備の停止による各建屋の水位上昇を評価したところ、各建屋の水位は制限内に維持可能であることを確認している。また、淡水化処理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響もない。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/11 10:00頃、滞留水のサンプリングを実施するため当社社員が現場に向かったところ、1号機タービン建屋1階ヒータールーム西側の壁付近の天井部より水漏れを発見。床面には約5m×約7m程度の水溜まりがあり、近傍のファンネル*への水の流れ込みを確認。現場確認の結果、天井上部の配管(ルーフトレン配管と推定)の損傷箇所から漏えいしており、漏えい水は雨水や雪解け水と推定。漏えい水の放射能濃度は、セシウム 134:1.1×10¹Bq/cm³、セシウム 137:1.7×10¹Bq/cm³。漏れた水は(タービン建屋地下滞留水として)タービン建屋内に留まっており、海洋への流出はなし。
※各建屋の配管や機器からの排水を受けるタンクに導くために、水をうけるための中間枡のこと。

以上